



# 東京市に於ける 交通機關の統制に就て

東京市電氣局長  
道路改良會理事

筧 正 太郎

一國の盛衰が、其の國の交通狀態の良否に懸るといふことは、明かな所であつて、道路其他の交通機關が整備し、且つ其の機能が完全に行はれるといふことは、一國の産業及軍事の爲めに必要であるのみならず、其の國の文化の程度をも窺知せらるゝのである。

翻つて吾國の道路を觀るに、未だ容易に其の舊套を脱し得ない状態にある事は、經濟上其他種々の事情にも依るものなれど、甚だ遺憾なことである。

此間も自分が松戸から六實<sup>ムツミ</sup>に行く自動車<sup>バ</sup>に乗つた時、丁度<sup>ハツク</sup>布哇<sup>ハッヱ</sup>の人達と乗り合はせたが、自動車の通る道から見える横道が、何れも非常に泥濘の甚しいのを見て、種々の事を話し合つて居るのを聞き、非常に肩身せまく感じた。千葉縣は地質の關係上有名な悪路である事は、實に已むを得ぬ事であるが、着々改善して欲しいものである。

自分は今東京市の事業に關係して居り、特に交通に就ては常に考へて居るのであるが、幸ひに東京市の道路は、市民の理解と當局者の盡力とにより、震災後は段々改善せられて、此頃では見違へる程良好なる道路が出来つゝあることは、誠に喜ばしいことで、尙ほ此上は一日も早く是が完成せん事を切望するものであるが、それと共に、一方に於て其の道路の機能が完全に發揮せられて居るか、又道路以外の種々なる交通機關が、道路と相待つて十分に其の機能を出して居るかといふことに就ては、頗る遺憾の様に考へて居る。

今市の電氣局の状態に就て一言して見たいが、東京市の電車は震災前迄は、相當の成績を擧げて居つたのであるが、震災後市内に於ける人口の減少に伴ひ、又特に大正十四年に於ける省線の市内横斷線の完成に依り、非常に乗客を奪はれ、之が爲め年々數十萬圓の缺損を生じ、特に本年度に於いては世間の不景氣に伴つて減收を重ね、豫定收入に及ばざること今日に於て既に百五十萬圓に達し、尙豫算そのものが六十萬圓の不動産處分等に依り、收支を償ふことになつて居るので、缺損が結局二百萬圓

に達する見込である。更に一方軌道及車輛等が本當に完全な状態を保持して居るかといふに、從來年々四百萬圓位を要すべき保存費にて、百萬圓位しか支出して居ないから、遺憾乍ら軌道も損所を生じ、車輛も此間の降雨の時は、二百以上の雨漏車を出したといふ様な状況であるが、經費の關係上本年は新造車の豫定は一輛もなく、従て二十五年以上も経た車輛を使つて居る様な状態である。其の外電氣局では佛貨公債を持つて居つて、今日は紙幣フランで償還及利拂をすることにして居るが、此問題に就ては既に巴里に於て訴訟となり、目下尙係争中であるが、若も將來金フランで拂はなければならぬといふことになる、更に二百萬圓近くの巨額を年々支出しなければならぬ次第で、差當り六百萬圓以上も軌道經濟に於て不足を訴へて居るといふ状態である。

又自動車の經濟を見ても、是は年々相當に乗車人員は増加しては居るが、矢張り本年は豫定收入に對して、約七十萬圓位の減收を見る豫定であるから、折角其の益金を以て擴張の計畫を立て、は居たものゝ結局の處是亦容易に實現し得ざる様な状況である。尙其の上今後、共震災の結果に依る市區改正に基いて軌道の移轉を爲さなければならぬので、今後三、四年の間は年々百萬圓近い市債費の増加を要すると云ふ非常な苦況に立つて居る。而して現在東京市及び其の近郊に於ける交通機關の状況を見ると、市營電車百二哩、省線電車六十六哩、私營電車二百八十二哩、市營バス六十四哩、東京乗合バス三十哩を主なるものとし、其の他小營業乗合自動車は十數種に上り、大東京の圏内を縦横に往來して居る。又其の主なるものゝ乗車人員を見ると、昭和三年度に於て市營電車四億四千五百萬、省線電車三億六千七百萬、私營電車二億三千百萬、市營バス四千二百萬、東京乗合三千三百萬である。而

して是等各機關が果して調整せられて居るかといふに遺憾ながら左様でない。省線は省線といふ立場のみから、又市營、民營の電車、乗合自動車は、亦各其の立場のみから經營せられ、一方では何等の停留場も有たない所の所謂圓タクといふ様なものが、雜然として街路を横行して居つて、之が爲めに各機關は機能を妨げられ、道路は無用にふさがれるのであつて、其の爲めに費用の點に於ても、又市民活動の時間の點に於ても損害甚しく、實に安全そのものすら稍もすれば脅さるゝ狀況である。

上に述べた電氣局財政の窮乏も、一は此等の點からも來て居る。外國に於ても其の實例に乏しくなく、米國に於けるデットニーバス、倫敦に於ける海賊バスの活躍に依つて、電車は最も利益のある部分の收入を失ひ、市民は是等の競争を喜びつゝある間に、電車は非常に財政上の不利を招ぎ、従て電車は邊鄙なる交通に對して、公共的立場よりなる利便の提供を止める事となり、市民も結局不便を醸すといふ事は、過去に於てよく知られたる事實であるが、今や我が東京市も稍々之に似た様な狀況を呈せんとしつゝあるのである。

依て思ふに、此際に於て大東京市に於ける交通上の最大急務は何かといふに、それは交通の統制機關を造るといふことである。即ち倫敦に於ける交通事業諮問委員會の如きものが出來て、交通機關の完全なる調節を爲し、乗車賃金を調整し、無用の競争を防止し、或は自動車、電車線出願の許否の意見を定め、其の他或は道路を緩行街路と急行街路と一區別指定し、或はワンウェイシステムを定め、又將來自動車の増加により、當然來るべき置場問題及停留時間問題に相當の準備を爲し、或は亦荷馬車其の他車輛の構造及速度の取締につきても、最も有力にして且つ權威あるものを設定し、それに依つて各

々の機關が十分に市民の利益といふことを目的として經營される様にならねと思ふ。今日の東京の交通は、内務鐵道兩省の下に警視廳其の他によりて監督せらるゝことになつては居るが、未だ渾然たる一體を爲すに至らないのである。實際一部市内の鐵道、軌道、乗合自動車といふものは、歐米の主なる都市に於ける様に、或る一つの機關の下に統一せられ、少なくとも共同經營される様になるといふことが理想である。ベルリンでは是等が國營、民營共に全部二十ペンニヒ均一制を定め、相互に一回の乗換を認むる事とした結果、市民の利益を増す事大にして、従て乗客の増加を來たしたといふ。吾々は其の處まで行き得ぬとも、新たなる統制機關の設置によりて、道路其の他の各交通機關が其の機能を十分進め得る様にするといふことが、今日の最大急務と信するのである。其の機關の組織等に就ては他日愚見を申述る事としたい。